

アラスカ便り



第1回

有難いことに、2016年度は特別研究員として学内の教育業務やその他雑務の多くを免除して頂けることとなった。

「この機会に海外で研究を」と少ないツテを辿り、アラスカ大学フェアバンクス校（University of Alaska Fairbanks; UAF）が7か月間、受け入れてくれることとなった。私はこれまで2週間を越えて海外に滞在した経験が無かったため、私にとって7か月は相当な長期滞在という感覚である。これまで日本の風習にどっぷりと浸かってきた私には、そこはかとない不安とともに、未知なる経験への期待感も入り混じる船出となった。

8月16日の夕方に日本を発ち約19時間、ようやくフェアバンクス国際空港（写真1）に到着した。到着日は飛行機の遅れもあって大学行きは諦めモーテルに直行。翌日、受け入れ先であるUAFの国際北極圏研究センター（International Arctic Research Center; IARC）を訪れた（写真2）。初対面の方ばかりで緊張していたが、皆が気さくに応対してくれた。私の非常に拙い英語に付き合ってくれて有難い限りである。2人部屋の一角に机を用意してくれた。はじめの一週間は手続きやら何やらで慌ただしかったが、徐々に落ち着いて自分のペースを掴めればと思う。

フェアバンクスは今、短い夏の終わりの季節である。夜間は10°C前後まで冷えるが、日中は好天であれば20°Cを超える。湿度は比較的低い（そのせいか入国後すぐに喉を痛めた）。IARCはフェアバンクス中心部から北西の小高い丘の上にあり、南方に広がる景色は素晴らしい（写真3）。ランチタイムになると、皆が思い思いに日差しを楽しんでいる。屋外のベンチでランチをする人、ジョギングする人。中には、どこからかハンモックを持ち出して昼寝をする人までいる。確かに、外に出て過ごしたくなる陽気である（熊谷の夏とは違って）。アラスカはこれから、冬に向かって一気に季節が進む。私もすぐに、今頃の陽気を恋しく感じるようになるのだろう。

2016年9月2日

渡来 靖（環境システム学科）



写真1：フェアバンクス国際空港の手荷物受取所



写真2：IARCの建物（左）、右はGI (Geophysical Institute)の建物



写真3：大学から南方の風景。天気が良いとアラスカ山脈を望める